

群馬県におけるクビアカツヤカミキリの被害状況

群馬県林業試験場 山田 勝也

背景

群馬県及び周辺県において発生しているクビアカツヤカミキリの被害は、他の被害地域と比較して範囲が広く、拡大も速いことが指摘されている（図1）。

今回、県が実施した5ヶ年分（2017～2021年）の被害状況調査結果を整理したので、本県における被害状況について報告する。

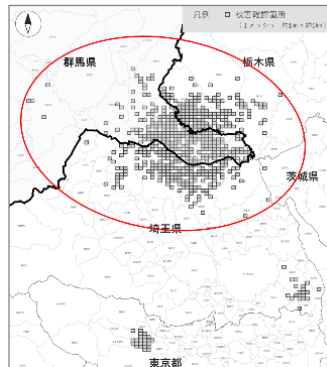
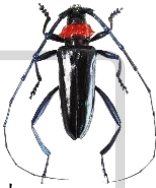


図1 関東地方における被害

クビアカツヤカミキリとは

- 中国等原産の特定外来生物
- サクラ、ウメ等の樹木に穿孔し、衰弱・枯死等の被害を及ぼす
- 12都府県で被害確認



方法

被害状況調査

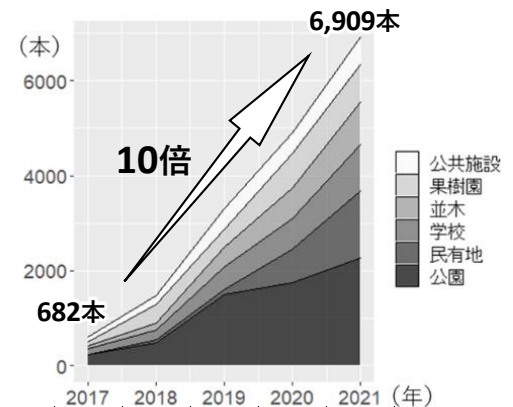
調査方法：現地調査、聞き取り等により県及び市町村が把握した被害木の本数及び位置情報等の被害状況を集約

調査期間：2017年から2021年の4月1日から8月31日

調査対象木：サクラ、ウメ、モモ、スモモ、プルーン、おうとう、アンズ

被害木の確認方法

被害を受けた樹木では、穿孔した幼虫が排出する大量の「フラス（木くずとフンの混合物）」が確認される



樹種	2017	2018	2019	2020	2021
サクラ	554	1,073	3,052	3,998	5,560
ウメ	37	144	196	512	826
モモ	60	198	168	266	235
スモモ	10	80	113	157	197
その他	21	15	32	27	91
合計	682	1,510	3,561	4,960	6,909

図2 被害本数、地点及び樹種の推移

結果

被害本数、地点及び樹種（図2）

- 被害本数は5年間で約10倍に増加
- すべての年において公園での被害が最も多い
- 民有地（主に社寺、民間企業、個人宅等。果樹園等は除く）は2019年以降、大幅な増加傾向
- 被害樹種はすべての年でサクラが最も多い

被害範囲（図3）

- 東毛地域（県南東部）から県中部に広がり、12市町まで拡大
- 被害範囲の最外郭は、2019年以降年間約5km拡大
- 2020年以降には高崎市で飛び地の被害が発生

被害の発生頻度（図3）

- 2017年の被害範囲は、2021年においても発生頻度が高まりながら、継続して被害が発生している
- 発生頻度が高い範囲は東毛地域に集中

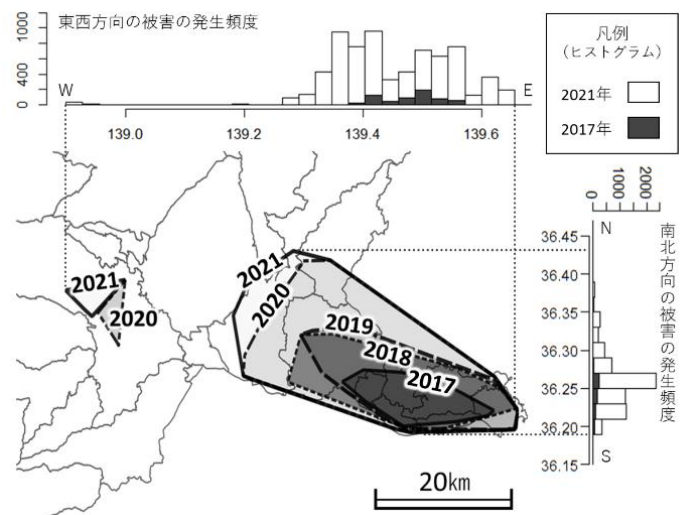


図3 被害の範囲及び発生頻度

考察

- 民有地の被害の増加は、各種広報や2019年から開始された市民を対象とした駆除の報奨制度等による認知度の向上や被害の顕在化により報告が増えたことが一因と考えられる
- 被害樹種にサクラが多い理由は、植栽本数が多いことが一因である
- 既被害地域においては、概ね2～4年で被害の発生頻度が高まる可能性があるため、早期発見及び早期防除が対策のカギとなる